

2021年2月12日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状態にあるが、全体としては持ち直し基調にある。

輸出は、緩やかに増加している。設備投資は、増勢が一段と鈍化している。個人消費は、持ち直し基調にあるが、サービス消費を中心に下押し圧力の強い状態にある。住宅投資は、緩やかに減少している。公共投資は、増加している。こうした中で、生産は、緩やかに増加している。雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症が、当地の経済金融情勢に与える影響などを注視していく必要がある。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、緩やかに増加している。

設備投資は、増勢が一段と鈍化している。

個人消費は、持ち直し基調にあるが、サービス消費を中心に下押し圧力の強い状態にある。

家電販売額、乗用車販売は、持ち直している。スーパー等販売額は、持ち直しの動きが続いている。百貨店販売額は、足もと弱めの動きがみられている。外食売上高、旅行取扱額は、大幅に減少している。

住宅投資は、緩やかに減少している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、緩やかに増加している。

内訳をみると、輸送機械関連や電子部品・デバイスを中心に緩やかに増加している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、1%程度のマイナスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移しているが、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が一部にみられている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金や個人預金の増加を背景に、前年比9%程度のプラスとなっている。

貸出残高は、企業向けの資金繰り支援融資の増加を主因に、前年比5%程度のプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上